



Rokko Catholic Church Bulletin

カトリック六甲教会 2010 教会報 7

No.463



キリストの受肉

ダニエル・コリンズ神父

「キリストは肉をもって現され、霊において正しく証せられ、」(テモテ 3-16)

私たちキリスト者は「キリストの受肉された」ことの本当の意味が分かっていないのではないのでしょうか。神様の霊が私たちの中に残されていることが分かっていないと思います。父なる神は、愛ゆえにキリストをお遣わしになり、キリストは愛ゆえに受肉されたのです。今でも愛があるところには、神様がおられるし、赦しがあるところに神様はおられるのです。そして、互いに愛し合っているところにもキリストはおられるのです。

キリストは単に狭い、教会の中のごミサだけでなく、それ以外の所にもおられることを知らない信徒が多いのではないのでしょうか。それでは信徒として狭いと言わざるを得ません。キリストは、わたしたちの肉を取ってくださり、私たちを神にとりなし、神のご愛顧のうちに導き入れてくださいました。

日本という社会の中でも、たくさんのすごくいい人がおられます。キリストはその人達の中にもおられます。神様がいつでも、そして今も一緒におられることを信じなければなりません。

むしろ今、自分の心の中におられる神様の霊に導かれて、自分の判断とか、自分の信仰に動かされるものに従うことが大切だと思います。

「キリストの受肉」とは、神様の霊に従っているかどうかの一つの基準になると思います。キリストは受肉することによって、私たちと同じようになられたが、私たちもキリストと同じようになるよう努めましょう。

(第三回) キリストの愛のしるしである目に見える証（秘跡）

従来、この秘跡は“終油の秘跡”と呼ばれ、生命が危なくなった人に対して授ける秘跡として行われていました。第二ヴァチカン公会議以降、この秘跡は“病者の塗油の秘跡”と改名されると同時に、病気で苦しんでいる人々はもち論ですが、手術を控えている人にも癒しと恵みの力を受ける秘跡として実施しています。

病者の塗油の秘跡

危険な容態にある病気の信者の苦痛を和らげ救いが与えられるよう、また、教会が苦しみを受け栄光を受けたイエスに、その人を委ねて祈る病者の塗油は、病人に油を塗布し典礼書に規定された文言を唱えることによって授けられます。病気から癒されることこそ神の恵み、神の哀れみのみ業であるからです。“癒し”は、神の国のしるしであり、またイエスが御父の力と霊を現す機会でもあります。人が病気になった時、共同体はあわれみ、祈り、癒しの行い、ゆるしなどで応えて、主の名によって病人と全体的に出会います。「あなたがたの中で病気の人は、教会の長老を招いて、主の名によってオリーブ油を塗り、祈ってもらいなさい。」（ヤコブ 5：14）

重い病の時には、自宅でも病院でも司祭に病者の塗油を受けられます。



主任司祭 松村信也



「マザー・テレサの言葉」を読む第2回 「愛の反対は」

**「愛の反対は憎しみではありません。
愛の反対は他者への無関心です。」**

「愛」の反対は普通に考えれば「憎しみ」のように思えますが、マザーはそうではないと言います。なぜなら、「憎しみ」はその相手が自分にとって意味がある人、大切な人だからこそ起こる場合が多いからです。「可愛さあまって憎さ百倍」と言いますが、本当は自分の思い通りに動いてほしいのに思い通りにならない、自分を大切にしてほしいのに大切にしてくれない、そんな思いから「憎しみ」が生まれてきます。ですから、「愛」と「憎しみ」は反対というよりもむしろ表裏一体のものだと言えるでしょう。一番憎かった相手が、仲直りした後は一番大切な友だちになるというのもよくあることです。むしろ「愛」の反対は、誰かに対してまったく関心を払わないこと、その人の存在を無視することだとマザーは言います。道端で人が倒れていても、まるで石が落ちているかのように見て気にもとめない、どこかの国で災害が起こりたくさんの人が飢えていると聞いても、自分の会社や家族のことばかり考えていて聞き流す。そんな態度こそ、「愛」の正反対だとマザーは言います。「愛」の反対は「無関心」なのです。「愛」の反対が「無関心」だとすれば、「愛」は誰かに関心を持つことだと言えるかもしれません。道端で倒れている貧しい人に関心を持ち、その人の苦しみに共感すること、それこそが「愛」の始まりでしょう。苦しみに心から共感すれば、その人のために自分を犠牲にしても何かをせずつにいらなくなるからです。「愛は同情に似ている」という言葉がありますが、むしろ「愛は共感から始まる」と言っているのではないのでしょうか。先日、ダライ・ラマがある講演で「マザー・テレサは全人類にとって共感の模範だ」と言いましたが、まさにマザーは全ての人の苦しみに共感し、そこから愛を始めた人でした。

助任司祭 片柳 弘史

パイプオルガンを迎えて

このたび、私たちの教会に東梅田教会からパイプオルガンがやってきました。

この楽器は 40 年前に辻オルガン工房の 8 番目の作品として作られました。日本のオルガン制作者の草分け的存在である辻宏氏は、1964 年から亡くなる 2005 年までの間 81 台のオルガンを作られました。このオルガンは其中でも初期に当たる 1970 年、8 台目の作品です。2 段手鍵盤と足鍵盤、11 ストップ（音栓）、500 本強のパイプ数を持つ、パイプオルガンとしては小規模なものです。

最初は日本基督教団東梅田教会の一般ビルの最上階にある小さな礼拝堂に置かれていました。その後、教会の立て替えに伴い、2001 年に現在の東梅田教会聖堂に再設置され、教会を支えてきました。

私の恩師が長年、主任オルガニストとして活躍されている教会であるため、私は高校生時代からレッスンに使わせていただいたり、新聖堂になってからも、何度かミニコンサートで演奏させていただいていました。

昨年来、年数を経たわが教会の電子オルガンの修理頻度が増えており、新オルガンについて検討していました。そんな折東梅田教会が新オルガン購入のため、前述のオルガンの貰い手をさがしている、というお話がありました。そして、ちょうど 1 年前、主任司祭、評議会議長、オルガン準備委員会のメンバーと見学に行き、その後評議会での検討を重ね、ご縁があつて我が教会への貰い受けが決まりました。

オルガンは建物と一緒に音を奏でます。私は六甲教会に来て、このオルガンの音が今まで以上に伸びやかになったと感じています。六甲教会の伸びやかな空間の響きがオルガンの音を解放してくれたかのように感じます。オルガンは唯一、ふいごに風を送るモーターだけは電動ですが、他はすべて自然素材で作られ、からくり仕掛けのような作りで、“風”が笛を鳴らす生きた楽器です。新しい家に来て、部屋の大きさ、温度、湿度、弾き手、などいろいろ変化し、きっと今はまだ戸惑っていると思います。そして、私たち 13 人のオルガニストもミサでこのオルガンとともに歌う会衆の皆様も、いろいろ戸惑いがあるかも知れません。いろいろ試行錯誤を重ねながら、神様を賛美するより良い響きを求めて行きたいと励んでいます。彼女（オルガンはなぜか女声名詞！楽器の女王とも呼ばれます）が、私たちの教会によりなじんでいってくれることを心より願っています。

（三浦）

聖堂内に溶け込むように落ち着いた
雰囲気を出すパイプオルガン。
導入に携わったメンバーは、ホット
した気持ちだった。



オルガンチームメンバー



2010年 小教区評議会年次報告会議事録

- ・日時： 2010年5月30日(日) 11時ミサ後(12:20～13:10)
- ・場所： 大聖堂

1、評議会議長挨拶

2009年度は、新しい主任司祭を迎え、新たな一步を踏み出した良い一年であった。主な活動としては、地区会の協力による信徒動静調査・信徒台帳の整理（昨年秋から作業中）、広報部の協力による信徒必携の「カトリック六甲教会のしおり」の作成など。

また、5月29日に「宣教を考える集い」第一回（参加者約40名）が開かれ、「教会・信仰とは何か？」についてあらためて皆で考え、今後につながるよい絆が築けた。

2、議 題

(1) 信徒会・専門部会新任役員・コーディネーター紹介

新任役員・コーディネーターの紹介。氏名は「2010年度教会のしおり」に掲載。

(2) 2009年度教会会計報告

前年度と比較しながら各項目について説明。

尚、会計報告書は昨年度まで教会報に掲載していたが、今年度より年次報告会での報告とする。

(3) 2009年度小教区評議会決算及び2010年度予算報告

各信徒会・専門部会ごとに説明。

(4) パイプオルガン導入・設置について

パイプオルガンの導入に至った経緯および設置工程の説明。教会報6月号にも掲載。

(5) 信徒会館リフォームについて

各会代表による信徒会館リフォームプロジェクトチームの立ち上げ・検討会の進め方について説明。チーム内でリフォーム案を検討し、小教区評議会で審議。7月評議会では第一回報告予定。教会報でも適宜報告予定。

3、松村主任司祭あいさつ

年次報告会への出席、そして昨年度の信徒の協力に感謝。

新規プロジェクトもあるが、無駄はせず使えるものは今後も活用。若い世代の将来のためによりよい教会を目指すことが現在のつとめ。地区を強化し、互いの信仰を深め、新たな宣教をして、六甲教会をますます盛り立てていく。教会は多様性の一致。そのためには様々な場での分かち合い、信徒ひとりひとりの尽力が必要。協力をお願いする。

事務所よりお願い

- 1、ダンボールを処分する時は、つぶして平らな状態にして出して下さい。
- 2、ごみを出す時は、かさを小さくして捨てて下さい。
- 3、冷房の温度は、低過ぎないように設定して下さい。そして、部屋を出る時は、スイッチが切れているか確認して下さい。



みんなの広場

アンネ・フランクのパネル写真展を観て

6月10日から15日までイグナチオ・ホールにて“アンネ・フランクのパネル写真展”が開催されました。この写真展は6月上旬六甲学院で催されていましたが、駅からちょっと遠い距離のため諦めていました。ところが、六甲教会でも開催されると知り、とても嬉しくなり朝早く出掛けました。

アンネ・フランクと言えば「アンネの日記」で大勢の人々によく知られています。しかし、彼女の“ありのまま”の真の姿を知る人は少なかったでしょう。今回の写真展によって、アンネ・フランクの全体像を当時の背景と共に知らされました。それは喜びと同時に、彼女の短い生涯が写真を通して観るとき、否応なしに彼女を取り巻く当時の様子が、音響を伴って目の中に飛び込んで来るようでした。

この写真展をご覧になられた方は、それまで想像していた「アンネの日記」からのイメージとは違ったアンネ・フランクの悲惨な人生を、共感共有されたのではないのでしょうか。

ただユダヤ人と言うことだけで、彼女の家族はナチス・ドイツを逃れてオランダのアムステルダムに移住しました。しかし、ナチス・ドイツから逃れることは出来ず、家族全員強制収容所へ連行されました。その後、アンネ・フランクは収容所の中で僅か15歳と9ヶ月という生涯を終えたのです。



「アンネの日記」は13歳の誕生日からオランダ・アムステルダムの隠れ家でゲシュタポに捕まるまでの短い期間に綴られた日記です。恐ろしい環境に閉じ込められながらも、常に希望を失わず、すべてに積極的な意味を見だし、生きることの素晴らしさを表現しています。あれほどまでの窮地に追いつめられながらも、彼女の生命に対する積極的な姿勢は、彼女の日記を知る人、まだ知らなかった人に、この写真展を通してどのように映ったのでしょうか。

最後の最後まで希望を無くさなかった健気な少女の姿を思い浮かべるとき、戦争という人間の造った最大悪をどのように私たちは考えればよいのでしょうか。今も続く“戦争”を地球上から無くす努力を本当に、真剣に実践しているのでしょうか。すべての争いの根源は、人間と人間の僅かな“心の働き”の違いであることを知る人は、この世界にどれほどいるのでしょうか。

「アンネの日記」は、ご自身の短い生涯を通して“生きることの素晴らしさ”、救われることはなかったが、それでも残された者へのメッセージとして“決して希望を無くさない生き方”を教えているのです。

さあ！残された者よ！いつも「『暗いと不平をいうよりも、すすんで灯りをとみましょう。』後ろ向きの人生なんて、あなたにむいていないから・・・」
アンネの写真展に感動した信者より



各部だより

☞壮年会・婦人会・青年会

7月25日(日) 合同例会

☞社会活動部

7/2(金) 初金ミサ後、社会活動部連絡会

第2会議室どなたでも参加ご自由です。

7/7(水) 10:00 手芸の集い(第1、2会議室)

7/10(土) 10:00 炊き出し(イグナチオホール、お台所)

小野浜グラウンドにて配食やおじさん達のお話相手だけでもOKです。

7/15(木) 14:00 ベタニアの集い(イグナチオホール)

聖体拝領式と茶話会

7/18(日) 9:00 ミサ後、ミニバザー お弁当・手芸品等の販売

7/23(金) 9:30 ともしびケーキづくり(お台所)

☞教会学校

7月3日(土) 通常

10日(土) 終業式

11日(日) 子供と共に捧げるミサ

24日(土) キャンプ準備会

26日(日) ミサ当番

《お知らせ》

社会活動部

■ 船員司牧セミナーについて

- ・日時：7月10日(土) 10:00～16:00
- ・場所：神戸中央教会と神戸港、海員センター
- ・内容：神戸港の概要と船員司牧について
船員の体験談、神戸港めぐり
多数の参加をお待ちしております！！

養成部

■ 研修会「現代典礼のあり方について」

- ・日時：7月17日(土) 14:00～16:30
18日(日) 14:00～16:00
- ・講師：具 正謨(クー チョンモ) 神父
- ・場所：主聖堂
どなたでも参加出来ます。

行事報告 ～～～

超教派 ☆ 青年の集い ☆

5月30日(日) 今回で7回目となる超教派の青年の集いが、神戸栄光教会で行われました。回数が重なるにつれ、青年同士の繋がりも深まり、再会した瞬間、「久しぶり～」「元気してた～？」など、笑顔一杯で、嬉しい挨拶が行き交いました。集合してからは、栄光教会スタイルの礼拝に参加し、教派の違う教会の素晴らしさに、また触れる事ができました。この日はとてもお天気が良かったので、全員教会の外に出て讃美歌を歌い、栄光教会の方が考えてくださった詩を朗読し、分かち合いました。木漏れ日の中で、貴重な体験ができました。礼拝後、毎回恒例の教会案内へと続き、私たちは栄光教会の教会塔に登らせていただきました。一番上からの眺めは最高で、私は鳥となり、大空に羽ばたいて行きたい気分になりました。美しい景色を惜しみながら下に降り、いよいよ、懇親会のスタートです！続いてのご報告は、川崎理砂さんにしていただきます。

(青年会 村田)

私達は地下の大きな広間に集まり、簡単な自己紹介を行いました。今回は 50 名弱ほどの人数でしたが、遠く和歌山、串本教会からの参加者もあり、回を重ねるごとに輪が大きく広がっていることに本当に喜びを感じました。その後 6 つのグループに分かれた私達は「グループ対抗ピザ作り大会」を行いました。テーマは「愛」、愛から連想したものをグループで相談し、ピザ生地の上に好きなものをトッピングしていくというのですが、あまりにも真剣にそれぞれの「愛」をトッピングしているみんなの姿は、とっても大きな愛に包まれてみんなの心が 1 つになっているように感じました。その後は栄光教会の方々が用意して下さったハヤシライスとサラダ、そして私達が作ったピザで楽しく充実した夕食を囲みました。さて、様々なゲームなどで盛り上がった最後、ついに次の開催場所を選ぶ「イライラ棒」ゲームが始まりました。輪になっている針金が長くくねった 1 本の針金の間を当らずに通すというゲームですが、針金同士が触れると「ビー」と音が鳴ります。鳴らさずにいかに早くゴールするかが勝負なのですが、結果は・・・！！今回の開催場所であった「栄光教会」のみなさんは、本当に手際良く、新しい形で私達を楽しませて下さり、そのレベルの高さにただ、ただ驚くばかりでした。準備等ありがとうございました。心から感謝いたします。

さて、次の開催日は 7 月 18 日（日）18:00 から六甲教会で開催されます！！興味のある方は是非ご参加下さい。自称青年の方大歓迎！！ゲームの結果は六甲チームは惨敗。でもこれも神様のご計画なのです。

これからも神の愛の大きな輪が教派を超えて広がっていくことを皆様もお祈り下さい。

（青年会 川崎）

東ブロック大会「ウオークラリー」に参加して

雨で中止になるかと思われたが、東ブロックの団結と意志は固かった。なんの躊躇もなく参加者が王子動物園に集結した。エスケープ出来るかなとたかをくくっていた私は、いやおうなしにラリーの班に組み入れられた。子供たちとリーダーそれに若干名の大人という編成である。わが班の人数は 12 人、班の数は 10 だから総員 120 名を越えるウオークラリーとなった。傘をさしながら、動物園内の探索が始まる。与えられた問題を解きながら園内を決められた時間内にまわるのである。

しかも「ゾウのなんとかさんの誕生日はいつか」とか「この動物園にコアラは何匹いるか」とかなかなか細かい。それでもたのしげに子供たちは協力し合い、園内地図と問題を見比べながら走り回った。11時半に正面入口集合、認定のスタンプを押してもらって、今度は坂道をテクテク歩いて、食事とミサ会場の「小さき花の園幼稚園」へ。たどり着いた幼稚園の広間でやっとお弁当にあり



ついた。お弁当は「おにぎり 2 個とお茶」と決められている。待ち受けて下さった婦人会のなさまの心づくしの「チキンナゲットとゼリー」の入った袋を受け取り一息ついた。その頃から雨はひどくなり、ラリー中比較的小降りであったことを感謝した。

ミサは六甲の片柳司祭と住吉の赤波江司祭で行われ、東ブロック 3 教会の子供たちが合同で侍者を勤めた。平和の挨拶ではお互いに握手を交わし、ブロック内交流の意識が高まった。梅雨のさなかのイベントではあったが、私のようなぐうたらな者でも、疲れを知らない子供たちと交わってみると、いつの間にか気持が高揚された心地がした。

（詫）

★★ 神戸中央教会 ★★

「ザー」「ああ！雨がふっている。」少し残念だ。ものすごい雨。15分ほどだろうか。ようやく王子動物園に入った。パンダを見にいった。名前は覚えていないが、オスの方は雨やどりをしていた。「かしこいなあ。でもパンダの白い所が茶色になっている！」そう思った。メスの方がエサの時間かは分からないけれど、中に入って行ってしまった。建物の中に入り見てみると、エサを食べていた。オスも入ってきて、エサを食べていた。ささの葉を頭からかぶり、食べていた。「おいしそうに食べてるなあ。かわいい。」と思った。やはりオスとメスの食べ方はちがう。メスはやさしく食べ、オスはがつがつ食べる。ウオークラリーは楽しい思い出となりました。雨がふっても、みんな楽しく活動できたので良かったです。楽しくて、小さい子たちはコアラの所のにせものの木で、「〇〇コアラ」と言っていて楽しそうでした。とにかく全部楽しかったです。また来年もウオークラリーに参加したいです。



(西川 〔小4年〕)

★★ 六甲教会 ★★

先日、ウオークラリーに行ってきました。中央教会のりょう太ろうと言う人と仲良くなりました。名前も年も知らない人といっしょにいたのに、なぜか楽しくおしゃべりをしたり、お昼ごはんを食べることが出来ました。とても楽しい一時をすごすことが出来ました。

(鈴木 〔小4年〕)

第15回 囲碁・将棋大会を終えて

青葉の映える季節となりました。日頃の実力を発揮すべく、囲碁15名、将棋4名（計19名）が一堂に会し、第15回大会の熱戦が5月19日（土）10時より繰り広げられました。

当日、色々なトラブルに見舞われましたが、関係者各位のご協力により無事大会を終えることが出来ました。今回の優勝者は囲碁では伊豆 治さん、将棋は中口 精二さんです。



第15回大会参加者

夜のパーティでは、初参加の若い女性が花を添えてくれ、楽しい一時を過ごすことができました。この席上で心残りなのは、同好会創始者である桜井前主任司祭が多忙のため、欠席されたことです。また最近では年配の方が体調不良で、あまり姿をお見かけしないのが残念です。若年、中年、老年を問わず、少しでも興味と時間に余裕のある方は是非、参加下さい。

毎週土曜日午後1時から3階のロヨラルームで行っています。教会の親睦と交流を図るためにお友達を誘って、参加してはいかがでしょうか。

世話人：武田

～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．
～．．．

「司祭年閉幕」

助任司祭 片柳 弘史

6月11日、「イエスの聖心の祭日」に合わせて、カトリック玉造教会で大阪教会管区の司祭年閉年行事とミサが行われた。大阪教会管区には広島教区、高松教区、大阪教区、京都教区、名古屋教区の5教区が属している。その行事とあって、西は下関から東は名古屋まで、各地から百数十名の司祭たちが玉

造に集結した。集いは会食から始まり、パネルディスカッションへと移っていった。

溝部司教の司会によるパネルディスカッションでは、年齢も教区も違う5人の司祭たちが自分自身の司祭としての歩みについて話してくれた。自分を「旧式の神父」と呼んで自転車で家庭訪問に精を出す老司祭の話、福音宣教のあり方を模索する若手司祭の話、与えられた使命のままに歩み続ける中堅司祭の話等どれも印象深かったが、特に名古屋から来た神父さんの「奉仕するとは24時間ミサを初めとする秘跡



的奉仕のために待機しているということだ」という言葉が特に胸に残った。司祭の本分が秘跡的奉仕であるならば、司祭はそのくらいの覚悟で生活の全体を秘跡的奉仕に向けて整えるべきだろう。

ディスカッションの後半では、日本のカトリック教会の将来をどう考えるかというテーマでフロアにも発言が求められた。年配の司祭たちからの発言が続く中で、わたしの前に座っていた韓国人の若い神父さんが手を挙げた。韓国の500人集まる教会から広島50人しか集まらない教会に来て働き始めた当初、彼はなんとか1人でも信者を増やそうと思って懸命に努力し、1年かけて1人の人を洗礼まで導いた。ところが、洗礼の直前に家族の反対が起こってその話は流れてしまった。ショックを受けた彼はもう韓国に帰ろうと思って荒んだ気持ちで聖務をするようになった。そんな彼の様子を見ていた信者さんがあるとき彼に「わたしたちの神父さんに対する愛は、どんなにたくさんの人たちの愛にも負けません」と言った。その言葉を聞いたとき、彼は自分の間違いに気付く、数を求めるのではなく1人ひとりの信者さんたちの愛にこたえられる司祭になることを決意したという。数を求めがちなわたしにとって、とても考えさせられる話だった。

司祭は自分の力で決して人を救うことができない。信徒との交わりの中でイエス・キリストの愛に出会い、その愛に生かされたときにだけ人を救うことができるのだと思う。信徒の愛がなければ、司祭は何もできないとさえ言えるだろう。一人ひとりの信徒との出会いを大切に、イエス・キリストの愛の力に満たされてこの道を歩み続けたいと改めて思った。



「典礼奉仕者の集い」に参加して

「典礼奉仕者の集い」に参加して二年ほど前から、土曜日の夜に朗読奉仕をさせていただいています。ある方から声をかけていただいたのが始まりでしたが、最初はずいぶん重荷で、情けない話ですが、断る理由さえ見つければ逃れられたのに... などと考えていました。典礼奉仕者としてミサに与ることで見えてくるものもある、そこには喜びもある、と思えるようになってきたのは、ようやく最近のことです。今回の集いで、他の様々な奉仕をされている皆さんのお話をうかがって感じたのは、「ひとりじゃないんだ」ということ。その時々、それぞれに色々な思いを抱えながらも、ひとつにまとまろう、流れを途切れさせずに形を作り上げていこうと努めることでミサが進行していくのですね。松村神父さまの「ミサは個人のものではなく、みんなのもの、共同体のものです」という言葉が、深い意味を持って立ち上がってくるように思えました。当番が回ってくる度に強い緊張にとらわれるのは今も変わりません。祭壇に上がる時には俎上の魚のような心境で、お辞儀をしながら「後はお任せしますので、どうぞよろしくお願いします」と心中で唱えたりしています。奉仕にあたって「自分を手放すこと」を自分に言い聞かせているとおっしゃった方があり、とても共感しました。失敗したらどうしよう... という不安や恐れも、転じてピシッとゆるみのない所作に繋げていくことが出来れば、と思います。典礼奉仕に携わることで、実は与えていただいているものの方が大きいのではないかと、と常々感じているのですが、その思いをまた新たにすることが出来た集いでした。ありがとうございました。(田中)

婦人会遠足

今年の婦人会遠足は、好天に恵まれた倉敷で楽しい一日を過ごすことができました。
私の拙い俳句をまじえて旅の一日を綴ってみました。

バスは、ほぼ定刻に教会を出発し、山間のハイウエーを一路倉敷へ。
定時刻にカトリック倉敷教会に到着しました。早速、先方の倉敷教会の
ブレイズ神父さまと六甲の松村、片柳、安芸神父さまとの共同司式
でミサに与りました。

聖書からあふる言葉夏の庭

白百合や心ひとつにせし祈り

折りしも聖五月、マリア様を讃え皆の心が一つになりました。ミサに与るよろこびが五月の庭一杯に
満ちました。御ミサのあと、アイヴィースクエアで昼食をいただき、食後は美術館コースと散策コース
に分かれ、地図を片手にフリータイムを楽しみました。大原美術館の入り口には左右にロダンの彫
刻が立っています。

「カレーの市民」と「洗礼者ヨハネ像」です。苦悩をたたえたようなヨハネの表情を見上げながら、当
時のヨハネの説教はどのようなものだったのだろうと思いをめぐらせました。

新樹光ヨハネ像立つ美術館

その後、私は斉木さんと二人で小さな濠を回遊する川舟を予約し、乗船する
ことができました。予約は大変混んでいてやっと2時発の席がとれました。
水面から見上げる初夏の風景は新鮮で、心地よい川風が檣（おうち・梅檀の
花）の花の甘い香りを運んでくれていました。

櫓を漕いで行けば薫りて花檣

また、初老の船頭さんは大原孫三郎と児島虎次郎の友情逸話とか、花崗岩の一枚岩で作られた橋のこ
ととか、もともと濠はインドからの綿花の運搬用に作られたことなどを説明してくれました。

郷土史を語る船頭風香る

旅といえば土産物、選ぶのは楽しみでもあり気苦労でもあります。「豆吉」と
いうお豆専門のお菓子屋さんでは沢山の種類の豆菓子が並べられ、私たちの
一行で賑わっていました。

試食して選ぶ土産や旅薄暑

帰路も順調にバスは走り、定刻6時に無事六甲教会に帰着しました。いろいろお世話して下さいました
婦人

会役員の皆さま、ありがとうございました。

み恵みに溢れ一日夏の旅

（ 詫 ）



壮年会黙想会について

6月20日（日）、午後1時から3時30分まで、小聖堂にて黙想会をおこないました。
当日は、松村神父の2回のお話と、その間の各人の祈り、最後に聖体賛美式をもって短い黙想会が終
わりました。黙想会終了後は場所を信徒館2階第1・2会議室にて歓談し、楽しい時間を過ごしました。
今回の黙想会にあたって、松村神父のいつもどおりの素晴らしいお話と、的確なアドバイス、また、オ
ルガンの古泉さんに合わせての参加者の聖体賛美式の歌も、天使の歌声？を思わせる力強いものでした、
また今回、ご婦人の参加もいただき、歓談の場では華やかな雰囲気があふれました。改めて、松村神父、
古泉様、参加者の皆さまに感謝いたします。ありがとうございました。（ 亀田 ）

イスラエルを理解するための好著 2 冊

教会でも開催しましたが、六甲学院でもアンネ・フランク展を行いました。その際、かつてあれほど悲惨な経験をしたイスラエルの人々が、今何故パレスチナの人々に「されたことをするようになったのか」を考えることになり、2冊の本を見つけました。それぞれ今年の3月と4月に出版された新しい本です。

★ シュロモー・サンド著『ユダヤ人の起源～歴史はどのように創作されたのか』

武田ランダムハウスジャパン

この本の原題は「ユダヤ人の発明」なのですが、それはユダヤ民族・人種という理解の仕方は19世紀のヨーロッパのナショナリズムの中で「発明」されたものでしかないと説明します。ユダヤ人とはユダヤ教徒であって、民族（エスニック）とは関係がないこと。ユダヤ人がローマ帝国、アフリカ、ロシアに至るまで増加したのはユダヤ教への改宗者が増えたことによると説明し、シオニストはその事実を無視しながら、民族の歴史としての「離散させられた民族のシオンへの復帰」という虚構を描いたとしています。著者はテルアビブ大学の歴史学教授でイスラエル人です。この本は出版後イスラエルでも欧米でもベストセラーとなり、イスラエル内部からのシオニズム批判として評判となったようです。

★ ヤコブ・M・ラブキン著『トーラーの名において～シオニズムに対するユダヤ教の抵抗の歴史』 平凡社

この本の著者もユダヤ人で、カナダのモントリオール大学教授で歴史学者です。本の副題にあるように、シオニズムはユダヤ教の正統の教えではなく、むしろユダヤ教の伝統の否定であることを強調しています。トーラーへの忠誠を軸にした（つまり真正な信仰心を土台にした）シオニズム批判の書となっています。パレスチナ人への残虐な行為はトーラーに照らして許されないものであることを指摘し、イスラエル政府の行為は信仰に反するものであると非難しています。外部からはわかりにくい複雑なからみあいを丁寧に解き明かしてくれる内容です。こちらも欧米でベストセラーになったとのこと。

教えと具体的な生き方との関係性と無関係性（その間にある緊張関係）を考えていくことは、私たちがこの日本に生活しながら、どのように状況を理解し行動していくかに対する示唆を与えてくれるものであると思いました。一読をオススメします。

（吉村）

「宣教を考える会」

5月29日10時から「宣教を考える会」が開催されました。この日は六甲教会の全館を使用する予定でしたが、結婚式と囲碁大会が既に計画されており信徒会館の2階の全室を使うことになりました。幸い第一回目ということもあって、参加者が33名でしたので少し場所は狭かったのですが無事に開催できました。

「宣教」という言葉は、直ぐ「宣教活動」とか「宣教司牧」に結びつく行動的なイメージが浮かびますが、「福音を宣べ伝えなさい」は全てのキリスト者に対して告げられた教えです。ならば、「活動的に動けない高齢者にとっても病人にとっても必要な教えであるはず」との思いからこの企画は始まりました。つまり、活動のイメージ以前に私たちが考えるべき「宣教とは何か？」をともに考える一日でありたいと願いました。

最初に松村神父様から講話を頂きました。そこで指摘されたのは、「宣教は教会と別のものであってはならない。」ということでした。「教会の存在そのものが宣教であり、教会のあり方が宣教活動である。」と指摘されました。とかく「宣教のために何をするか？」と問い掛けがちな私たちですが、「何を信仰しているのか？」「信仰からどのような恵みを得ているのか？」を省みて「ならばどのように神に喜び感謝しているか？」を問うことが必要でないかと、その後各自講話のレジメを手に黙想の時間を取りました。

昼食の後、小グループに分かれてそれぞれの感想を分かち合いました。今回は教会学校のリーダー達が、リーダー研修に変えて参加されましたので若い方と高齢の方がともに恵みを分かち合えた事と思います。最後の派遣のミサでは久しぶりに御血も頂く両形態のミサに与ることができました。

この秋の10月30日（土）には第2弾の「宣教を考える会」を開催する予定です。

このような観点から私たちの信仰共同体として宣教を今一度見直してみましよう。是非多くの方の参加をお待ちしています。

編集員のつぶやき

6月も多くのイベントがありました。それ等のイベントを紹介するだけで紙面はいっぱい。今月号も編集するのに苦労しました。

梅雨空の土砂降りの日曜日、東ブロック（住吉、六甲、神戸中央教会）の恒例の催しである「ウォークラリー」に私も参加しました。雨にもかかわらず、100名近い小学生が元気に王子動物園に集結し、楽しく園内を散策した後、みんなで近くの幼稚園でミサに与りました。

また一方では、紙面で紹介されている「教派を超えた青年達の集り」も恒例化しつつあるようです。こうした若い人たちの集まりが、教会を活性化してくれます。

高齢化しつつある教会の中で、元気な若い人達がいろいろな機会にキリストを知り、味わえるようになれば教会の未来も明るくなるでしょう。

梅雨空のどんより曇った空に、一条の光が射すような気持ちを抱きながら、今回も教会報の編集に携わりました。是非、多くの皆様の投稿をお待ちしております。

(T・H)

教会報8月号の発行は8月1日(日)です。
編集会議は7月25日(日)です。
記事原稿は、7月18日(日)正午までに信徒会館受付へご提出願います。（広報部）
<http://www.rokko-catholic.jp>

カ	ト	リ	ッ	ク	六	甲	教	会
〒657-0061	神	戸	市	灘	区	赤	松	町 3-1-21
電	話	0	7	8	-	8	5	1-2846
F	A	X	0	7	8	-	8	51-9023
発	行	責	任	者	松	村	信	也
編	集	広	報	部				